

障害者スポーツの感動力が

共生社会を実現する

スポーツの普及や交流などを通じて、県民幸福度の最大化を目指す静岡県は「スポーツ王国しずおか」を合言葉に、アスリートの育成やスポーツ人口の増進に向け取り組んでいる。今回は、リオ2016パラリンピック等を契機に県民の間に芽吹いた障害者スポーツへの関心をより一層高める取り組みを紹介する。

障害者スポーツの裾野拡大

リオ2016パラリンピックにおける県勢の活躍ぶりは、多くの県民に夢と勇気を与え、同時に障害者スポーツへの関心を抱かせた。今年に入ってから、世界パラ陸上選手権大会ロンドン2017で佐藤友祈選手が金メダル、第23回夏季デフリンピックサムスン2017で水泳の津田悠太選手が銀メダルを獲得するなど、その勢いは止まらず、障害者スポーツへの注目度は高まっている。本県はそれを好機と捉え、2020年の東京パラ



わかからスポーツ大会に障害者スポーツ応援隊として参加した佐藤友祈選手。トップアスリートに出会って感激する参加者も多かった。

「県民意識の醸成」として、リオ2016パラリンピックに出場した本県関係選手が講演や実技指導を行う「障害者スポーツ応援隊」を結成し、障害者スポーツの普及を促進。「潜在アスリート

全国でも画期的な助成制度

障害者スポーツの選手にとって、競技に関わるコストは大きな悩みとなっている。例えば、競技用の車いすや義手義足等は、高価なものが多いため、費用面の理由で競技を諦めてしまうケースも少なくない。そこで本県は、2020年東京パラリンピックに向けて、強化活動費の助成を希望するアスリートを募集。助成額は、

年間で大学生以上120万円、高校生以下60万円となっており、用具の購入費、トレーナーへの報酬、メディカルチェックの費用等、用途も幅広く認めている。健全者と同額の支援や、用途を限定しない制度は全国でも画期的な試み。これによって将来有望な選手を発掘・強化できれば、本県の

障害者スポーツの裾野が広がり、幅広い競技でメダル獲得の期待はさらに膨らむだろう。

心の壁を取り払う魅力と感動

リオ2016パラリンピック競技大会が県民の注目を集めたのは、競技としての魅力に尽きると言われる。抜きつ抜かれつのデッドヒート、手に汗握るラリーの応酬など、観衆を惹きつける力は、健全者のスポーツに引けを取らないばかりか、それ以上の感動を与えてくれることも多い。それをきっかけに、障害者と健全者は、同じ社会の一員であり、ともに夢や希望を分かち合う存在であることを理解できれば、相互の心の壁は取り払われ、真の共生社会が実現するはずだ。障害者スポーツには、それだけの力がある。

本県が取り組む障害者スポーツの裾野拡大。2020年の東京パラリンピックに向けて、障害者スポーツの振興と県民意識の醸成が進めば、本県は、共生社会の理想郷として国内外に認知されるだろう。



ピックで金メダルを獲得すること。持ち前の集中力と切れ味のあるロングスパートで白熱したレースを見せれば、金メダルだけでなく、障害者スポーツの新しい地平も見えてくるだろう。

Profile

1989年静岡県藤枝市生まれ。車いす陸上競技選手。世界パラ陸上競技選手権大会ロンドン2017において車いす(T52クラス)の400mと1,500mで2つの金メダルを獲得。同競技の800mでも世界ランク1位(2017年現在)。グロップサンセリテ WORLD-AC所属。岡山県在住。趣味の囲碁は初段の腕前。

ある人に夢や希望を与え、ともに、社会の障害のある人に対する理解を深める活動に協力している。「障害者スポーツをかわいそうな障害者の競技として見てほしくありません。今年のロンドンパラ陸上では、たくさんのお客さんが一般的なスポーツ観戦と同じように楽しんでいる様子を見て感激しました。日本も東京パラリンピックまでにそうなるといいですね」と佐藤さんは期待を込める。現在の目標は、東京パラリン

のテレビ観戦で車いすのレースを見て「自分もあの場所に立つ」と決意。パラリンピックの出場経験を持つ松永仁志さんの指導を受け、トップアスリート仲間入りを果たした。2016年にはリオパラリンピックに出場し、400mと1,500mの2種目で銀メダルを獲得するも、金メダルを手にしたのは、あのマーティン選手だった。

佐藤さんは、静岡県の「障害者スポーツ応援隊」のメンバー。スポーツを通じて障害の

世界パラ陸上競技選手権大会ロンドン2017、車いす競技。リオパラリンピックの雪辱に燃えていた佐藤友祈さんは、ライバルのレイモンド・マーティン選手(アメリカ)をおさえて2つの金メダルを獲得した。手に汗握るレース展開は、障害者スポーツという範疇を飛び越えて、見る者すべてを圧倒し、魅了した。

佐藤さんは21歳の時、病で左腕と下半身の感覚を失った。しかし、ロンドンパラリンピッ



アスリート Pick up Athlete

さとうともき
佐藤友祈さん

車いす陸上競技選手
クラスT52

障害者スポーツを
ごく普通に
楽しんでほしい。



障害者カヌー(パラマウントチャレンジカヌー)の選手発掘イベント



障害者スポーツ応援隊(トップアスリートによる走り幅跳びの実技指導)



デフリンピックの活躍で知事特別表彰を受けた津田悠太選手。